

## 景気動向指数

さまざまな景気に関係のある指標を集めたもの。

内閣府→経済財政政策ホームページ→経済社会総合研究所（統計・SNA）→景気動向指数

### 景気動向指数を見るポイント

- ① 過去の景気循環を決定する景気基準日付を決める際の重要な指標
- ② 先行系列（景気に先行）、一致系列（景気と同時）、遅行系列（景気に遅れる）の3種類がある。重要なのは一致系列。先行きを判断するために先行系列も参考にする。
- ③ DI（ディフュージョン・インデックス）は景気の方角を示す。
- ④ CI（コンポジット・インデックス）は景気の量感を示す。

景気動向指数の作成法

景気動向指数構成項目←過去の動きから、系列が選ばれる。

景気動向指数のメニューから

個別系列の数値：(先行系列 一致系列 遅行系列 = Excel形式)

### <CI>の計算法

- ・各構成指数の前期比を計算する。（正確には対称変化率）
- ・前期比を平均する。（正確には基準化後平均）
- ・基準時点から平均の前期比を使って指数を作成する。

### <DI>の計算法

最新の数字を3ヵ月前と比べる。（C4稼働率指数、C9営業利益に注意、C10-1、C10-2などは除く。計算する場合は、削除する必要あり）

3ヵ月前より改善=1

3ヵ月前と同じ=0.5

3ヵ月前より悪化=0

D I =改善した指標数/採用指標数×100 (%)

(参考) 数式で表せば以下の操作でできる。

IF 関数→条件によって違う処理をする

IF (論理式、論理式が真の場合の処理、論理式が偽の場合の処理)

IF(当期のデータ>3 ヶ月前のデータ, 1, IF(当期のデータ=3 ヶ月前のデータ, 0.5, 0))

当期のデータが 3 ヶ月前のデータより大きければ 1 を、等しければ 0.5 を、そのほかの場合はゼロを入れる、という関数。

グラフの作成

(課題)

景気動向指数のうち一致系列の C I と景気後退期をグラフ化する。

(データ入手先)

内閣府→経済財政政策ホームページ→経済社会総合研究所→統計→景気動向指数→  
「集計結果」統計表一覧→

(長期系列 = Excel 形式)を選ぶ。

年のセルと月のセルが分かれているので、一つにする

つまり、1990 と 1 を一つにして、1990/1 とする。

月の列の隣に一行挿入する。

年の列と月の列を一つにする。 = セル & "/" & セル (注)

(注) 2 つのセルの値を一つのセルに表すには、&を使う。その間に文字列を挿入するとき  
は、前後に “ ” をつけ、“文字列” とする。

“1990” というセルと “1” というセルを使って、1990/1 とするには、次のような関数を使  
う。

= (1990 のセル) & "/" & (1 のセル)

一致系列・C I は右目盛とする→C I をダブルクリック→データ系列の書式設定→「軸」  
→第 2 軸とする。

景気後退期は、景気拡大期 = 0、景気後退期 = 1 としたデータを使った棒グラフで表現できる。

データは 2000 年からとする。

「景気基準日付」で景気の山、谷を確認する。景気動向指数／参考に資料がある。

景気後退期を 1、景気拡大期を 0 としてデータを作る。

2 つのデータを選んでまず棒グラフを作る。

<景気後退期のデータについて>

景気後退期の方をクリックして、使用する軸を第 2 軸にする。

第 2 軸の書式設定で、最低値 0、最大値 1 とする。

グラフの種類を棒グラフに変更する。

データ系列の書式設定→系列のオプションで、要素の間隔をゼロにする。

